

# 『発掘宇治, 23』

令和5年度 発掘調査・文化財速報



一里山遺跡発掘調査 (8.9月)



文化財防火デー 白山神社



白山神社 手摺送水管



文化財防火デー 白山神社 消防訓練 (1月)



大幣神事 (6月)



西笠取清滝宮木造男神坐像調査  
京都府文化財保護課 (10月)

# 浄妙寺

浄妙寺は、藤原道長が一門の菩提を弔うため、寛弘2年(1005)に木幡に建立した寺院で、場所の選定については陰陽師安倍晴明等が占い、創建供養にあたっては道長はじめ、多くの公卿が参列しました。藤原道長の日記などによれば、小川の北側に寺があり、その中心の建物として法華三昧堂と多宝塔がありました。

御蔵山の西麓、「ジョウメンジ墓」と呼ばれるあたりが、その浄妙寺跡と伝えられておりましたが、昭和42年、木幡小学校の建設に伴う発掘調査により場所が特定できました。

その結果、方五間で周囲に縁をめぐらした建物の跡があり、その位置より南約20~30m離れた所に、東より西へ流れる川の跡が発見されました。



平成21年発掘調査写真

法華三昧堂の縁の東石 (H2)



平成2年発掘の浄妙寺法華三昧堂跡



浄妙寺復元想像図(藤原道長と娘彰子・息子頼通の参拝)

# 平安時代の宇治

平安時代の宇治といえば、何を思い浮かべますか？



浄妙寺跡

宇治市街遺跡

白川金色院跡

## 『中世の歴史と景観』地図解説(宇治市史添付図)

〈基本的視点と方法〉宇治市史(第1巻34頁)から一部抜粋

中世の宇治は絶え間のない戦乱の渦に巻き込まれて、大きな改変を余儀なくされた。中世的な集落の出現や交通路の変遷・水系の変化・茶業の勃興などに、この中世宇治の変容が端的に示されるであろう。基図としては1:20000の図を使用し、山地や平野部に標高別に施した彩色も同様になっている。ただ第1巻でとりあげた古代の耕地としての条里制の遺構などが、古代以降の開発や水系の変遷などによって、大きく変化したことは否定できない。しかし、史料によって中世宇治における耕地を復元することは極めて困難であり、現段階では便宜上、明治時代の仮製地形図(1:20000)に記された耕地を記入せざるをえなかった。

# 宇治市街遺跡

宇治市街遺跡は、古墳時代から江戸時代に至る集落遺跡です。市街地に残る基盤目状の町割は平安後期の都市計画の名残りであることが判明し、また平安中期から後期にかけての貴族たちの邸宅に造営されていた庭園跡が見つっています。この平安期に成立した都市が、現在の宇治の原点となりました。

# 白川金色院

白川金色院は、平安時代後期の康和4年(1102)に関白藤原頼通の娘で後冷泉天皇の皇后である藤原寛子によって創建されたと伝えられています。寺域は白川谷の南北500m、東西300mの広大な範囲に広がり、往時の平等院に匹敵する規模を誇りました。その後、長祿4年(1460)の火災で全焼しましたが直ちに復興され、白川十六坊と呼ばれる多くの子院が建ち並びました。江戸末期まで存続していましたが、今は惣門や鎮守の白山神社などの建物やゆかりの仏像・経典が残るのみとなりました。発掘による出土品には、中国から輸入した白磁をはじめ、平等院鳳凰堂と同じ文様の瓦などがあります。



宇治市街遺跡 平成14年発掘調査地全景(ゆめりあうじ)



宇治市街遺跡 平成14年発掘調査で出土した土器



白山神社 拜殿(鎌倉時代・重要文化財)



白川 伝藤原寛子供養塔(鎌倉後期・重要美術品)



白川金色院跡 平成6年度発掘調査地全景

## 今年度の発掘調査概報 「一里山遺跡」

一里山遺跡は、宇治丘陵が分岐した小丘陵の末端部に位置する弥生時代から奈良時代の遺跡です。過去には土師器や須恵器、瓦片などが地表面で採取されていることから、当遺跡の南に隣接する白鳳時代の寺院である広野廃寺に関連する遺構がある可能性が考えられました。今回実施した調査では、上下2面の遺構面を確認しました。上層は広野廃寺に使用されていた瓦や土器片などを多く含む地層であり、南北方向に延びる柱穴や広野廃寺の瓦を含む瓦溜まりなどが見つかりました。これらの遺構が形成された時期は不明ですが、地層の中に近世の物を含まずに古代瓦が多量に含まれていることから、広野廃寺が廃絶した後の中世に作られたものであると考えられます。

下層の人の手が加わっていない地層である地山面では、3基の南北方向に延びる方形柱穴や土坑などが確認されました。方形柱穴は奈良時代まで見られる掘方であり、平成2年に実施した広野廃寺の発掘調査で確認されている広野廃寺西限の築地側溝と考えられている溝の東側の肩の延長線上に位置します。このことから今回見つかった方形柱穴列も広野廃寺に関するものである可能性が高いと考えられます。



上層 遺構完掘状況



時代の特徴を表す瓦

## 木幡にある「宇治陵」

いつから木幡に藤原氏の墓が築かれたかは明確ではありませんが、平安前期に初めて関白となった藤原基経から埋葬されたと伝えられ、その後、藤原氏出身の皇后なども踏まえた一門の墓所となりました。

藤原道長の父母や兄、姉、子供たちも葬られています。しかし、12世紀中頃の藤原忠通は法性寺山(東福寺辺り)に葬られ、藤原氏墓所は木幡から法性寺山へと移動しました。

宇治陵は、明治中期に、藤原氏出身の18人の皇后・中宮及び2人の親王たちの陵墓として明治政府が治定したもので、現在37地点が宮内庁により管理されています。



宇治陵分布図 (宇治市史第1巻 434 頁に追記)